

令和4年度 中学生の「税についての作文」の受賞者

(都合により受賞者の一部を掲載しています) (敬称略)

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

私たちの暮らしを支える税金

明和町立明和中学校 二年 金子 結 珂

群馬県納税貯蓄組合連合会長賞(金賞)

日本の社会を支える税金

太田市立東中学校 三年 大庭 愛

群馬県納税貯蓄組合連合会長賞(銅賞)

私たちが助けてくれた税金

太田市立太田中学校 三年 唐 品 陽 彩

支持

館林市立第三中学校 三年 小林 莉 緒

新型コロナウイルスと税金について思った事

館林市立第四中学校 三年 須 永 倫々子

群馬県納税貯蓄組合連合会長賞(優秀)

納税の意義

太田市立太田中学校 三年 楊 子 龍

幸せに生きるために

館林市立第三中学校 三年 田部井 向日葵

税金について

館林市立第三中学校 三年 今 野 瑞 生

若者と少子高齢化

明和町立明和中学校 三年 田 口 帆 夏

館林税務署長賞

税が抱えた少子高齢化による問題

太田市立毛里田中学校 三年 高 嶋 涼 風

税金がつくる「思いやり」

明和町立明和中学校 三年 野 澤 花

館林税務署管内租税教育推進協議会長賞

祖母から教わった税金

太田市立西中学校 三年 津久井 望 和

税金という名のリレー

邑楽町立邑楽中学校 二年 三田村 果 朋

館林税務署管内税務協力団体連絡協議会長賞

税金の大切さ

太田市立東中学校 三年 橋 本 唯 花

祖母を支えて

千代田町立千代田中学校 三年 松 沢 奈那美

群馬県太田行政県税事務所長賞

税金もスポーツもフェアプレーで

太田市立尾島中学校 三年 橋 本 和 希

群馬県館林行政県税事務所長賞

税のありがたみ

千代田町立千代田中学校 三年 安 達 由 奈

太田市長賞

一つの幸せの理由

太田市立東中学校 三年 齋 藤 奏 心

館林市長賞

税はいつも僕達を支えてくれていた

館林市立多々良中学校 三年 荒 江 優

板倉町長賞

税金の大切さ

板倉町立板倉中学校 三年 北 村 凌 雅

明和町長賞

私たちの身近にある税

明和町立明和中学校 二年 大 谷 彩 月

千代田町長賞

私と税の生き方

千代田町立千代田中学校 一年 武 藤 優 奈

大泉町長賞

繋ぐ税のメッセージ

大泉町立大泉北中学校 二年 吉 澤 礼

邑楽町長賞

日本の抱える税の問題

邑楽町立邑楽中学校 二年 佐 藤 なつめ

令和4年度 税に関する高校生の作文の受賞者

(敬称略)

群馬県租税教育推進協議会長賞税の意義と国民の生活
教育と税太田市立太田高等学校 二年 小 林 陸 翔
太田市立太田高等学校 二年 太 田 さくら**館林税務署長賞**未来につなげる税
選挙に税金はどのくらいかかるのか
税に助けられたこと
税金の使われ方を意識して群馬県立太田高等学校 一年 中 野 寛 之
群馬県立館林高等学校 一年 岡 島 慶 至
群馬県立大泉高等学校 二年 須 藤 夢 生
群馬県立太田フレックス高等学校 四年 佐 藤 明 南**館林税務署管内租税教育推進協議会長賞**身近なことから調べて分かったこと
未来の私たちへの税金
歴史から再認識する税太田市立太田高等学校 二年 三 木 梨 乃
太田市立太田高等学校 二年 長 島 愛 羽
群馬県立館林高等学校 一年 石 川 多 聞**館林税務署管内税務協力団体連絡協議会長賞**救急車が有料に…?
税との関係、私の関心
子どもを支える税金
初めて知った税金のこと
コロナ禍に感じた税のありがたさ
これからの日本
誰もが納めて守り守られるために太田市立太田高等学校 二年 吉 田 秋 姫
太田市立太田高等学校 二年 保 坂 遼
太田市立太田高等学校 二年 加 藤 綸 華
太田市立太田高等学校 二年 峯 岸 凜
群馬県立館林高等学校 一年 針ヶ谷 真 大
群馬県立館林高等学校 一年 半 田 楓 偉
群馬県立西邑楽高等学校 一年 今 井 陽菜乃**女性部会・
青年部会****会員募集中!**

部会では、税務研修やセミナーなどの会員交流事業により、
学びながら新しい仲間と交流が深められます。子ども達に税
の大切さを学んでもらうために実施する「税に関する絵はがき
コンクール」や「租税教室」などの地域社会貢献活動を一緒
に楽しみませんか!



中学生の「税についての作文」受賞作品

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

私たちの暮らしを支える税金

明和町立明和中学校

二年 金子 結 珂

私の住む町、明和町には「川俣駅」という駅がある。明和町唯一の駅であり、私の家から近いので、幼い頃からよく利用している。今でこそ、清潔感があり、綺麗で利用しやすいが、二〇一六年に改修工事が行われるまでは、非常に利用しづらかった。駅への出入口は西側にしかなく、東側に住んでいる私は踏切を渡らないと電車に乗ることができなかった。また、ホームに行くのに階段しかなく、エスカレーターやエレベーターがなかった。三、四歳の頃は階段を上がるだけで一苦勞だったのを覚えている。跨線橋も古く、さびていて、下を電車が通ると少し揺れることもあった。しかし、今の川俣駅は別の駅に思える程、生まれ変わった。昔の駅舎は取り壊され、新しい駅舎が建った。東側にも出入り口ができ、エレベーターやエスカレーターも作られた。さらに、二〇二一年には東側に「明和メディカルセンタービル」という病院や薬局、カフェが入った施設が併設された。

私は、川俣駅がどんどん発展していくのを見て、明和町がどんどん暮らしやすい町になっていく嬉しさを感じるとともに、何故川俣駅は発展することができたのか疑問に思った。

明和町のホームページを使って調べてみるとその理由の一つに「社会資本整備総合交付金」による費用の負担があったことが分かった。社会資本整備総合交付金とは、まちづくりなど地域が抱える課題を自由に、かつ創意工夫を生かすため国が支出する交付金のことだ。そしてこ

のお金は、税金で賄われていることを知った。私はとても驚いた。国民に納税の義務があることは知っていたが、どのように税金が使われているのかはよく分かっていなかったからだ。税金はいわば縁の下の力持ちのような存在であり、私たち国民の生活を支えてくれていることに気付いた。税金に感謝の気持ちを伝えたくなった。

一方で、日本では税金に批判的な意見やマイナスのイメージを持つ人も少なくない。私の両親も「日本は税金が結構高いんだよ。」と言っているのをよく耳にする。私は、だからこそすべての国民に税金が自分の暮らし、誰かの暮らしを支えていることを知り、納税に責任と誇りを感じてほしい。そのため、政府には税金の種類や使い道をもっと発信し、これからも国民の生活をよりよくするために税金を使うことをお願いしたい。

私はこの夏、川俣駅の発展について調べたことで、税金のおかげで私たちはよりよい生活を送れていることを知った。私の中で税金への見方が変わった。これからは税金への感謝や税金の支えがあることを忘れず過ごしていきたい。そして将来、私が納税するときは責任と誇りを胸に、しっかり義務を果たしたい。私が今、税金に支えられているように、私も誰かを支えていきたい。

